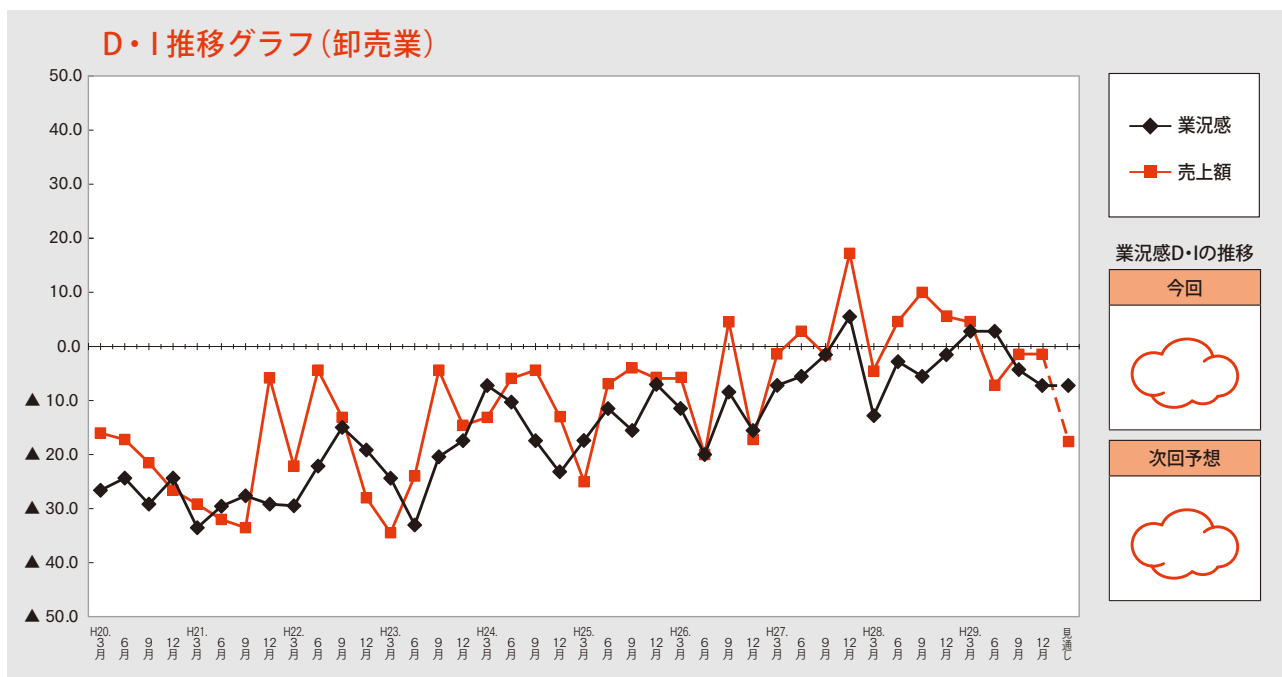


卸売業

Wholesale trade

業況感2期連続マイナス



1 今期 (平成29年10-12月期)

卸売業の業況感は今期▲7.1 (前期4.3)となり、前期に比べ2.8ポイント悪化し、2期連続でD I 値マイナスとなった。

売上額は横ばい、収益が前期比で8.6ポイント、販売価格も5.7ポイント改善したが、資金繰りが4.3ポイント悪化した。依然として続いている人手不足、仕入価格の上昇も解消されず、設備の不足感も強まり、全体の業況感が悪化したものと推察する。

2 来期の予想 (平成30年1-3月期)

来期も業況感は今期と変わらず、D I 値マイナスの見込みとなっている。売上額、収益が悪化の見通しで、仕入価格、資金繰りは改善するも依然としてマイナスの見通し。人手、設備に加え、在庫にも不足感が予想されている。

DI値の推移 (過去1年と3ヶ月後の予想)

	H28. 12月期	H29. 3月期	H29. 6月期	H29. 9月期	H29. 12月期	来期 見込み
業況感	▲ 1.4	2.9	2.9	▲ 4.3	▲ 7.1	▲ 7.1
売上額	5.7	4.3	▲ 7.1	▲ 1.4	▲ 1.4	▲ 17.1
収益	▲ 2.9	1.4	▲ 5.7	▲ 10.0	▲ 1.4	▲ 11.4
販売価格	1.4	4.3	7.1	1.4	7.1	▲ 2.9
仕入価格	▲ 13.0	▲ 11.4	▲ 20.0	▲ 18.6	▲ 18.6	▲ 8.6
在庫	▲ 1.4	0.0	▲ 25.7	▲ 10.0	1.5	4.3
資金繰り	▲ 15.7	▲ 11.4	▲ 11.4	▲ 20.0	▲ 24.3	▲ 14.3
人手	10.0	7.1	17.1	5.8	11.4	8.6
設備状況	7.1	10.0	2.9	4.3	17.1	15.7

業況調査メモ

鹿児島市中央卸売市場の青果市場(東開町)と魚類市場(城南町)で、建物の老朽化により再整備工事が進んでいる。青果市場は2018年度、魚類市場は1工区が18年度、2工区が20年度完成の予定。鹿児島市中央卸売市場は1935年、全国で7番目、九州で初の中央卸売市場として開設が認可された。当初、住吉町に青果と魚類の両市場が併設されていたが、取扱量の増大で67年に魚類市場、76年に青果市場がそれぞれ現在地に移転した。両市場ともリニューアル後は、施設機能と利用者の利便性が向上し、一般消費者向けのイベントも予定。鹿児島の食の情報発信拠点になるものと期待される。